学校番号	1302

令和８年度　(学) 共生科

教科	(学)共生	科目	(学)ソーシャルコミュニケーション	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	使用教材なし						
副教材等	使用教材なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

コミュニケーションの手法として「手話」「点字」を取り入れ実際に双方で自身の意見や考えを伝え合うようにします。
グループワークや実習が多い授業になると思いますが、繰り返し実践をすることにより、お互いが納得のいく話し合いをする様々なスキルの習得ができるようになります。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・双方向のコミュニケーションに関する基礎的な知識・技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
・授業を通して自分の考えを表現し、双方向のコミュニケーションに関しての基礎的な「思考力」や「考え方」を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
・個々の認識の違いを認め、尊重した上で、会話を通して平和的に問題解決する方法を生徒自ら考え出すことができる能力を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	双方向のコミュニケーションに関する基礎的な知識を身に着けることができる。 グループワークや実習を通して、座学で学んだことをアウトプットし、自身の考えを改良することができる。 状況に応じた適切な話し合いを行うことができる。	各授業で学習したことを元に課題を見出し、思考を深め、適切に判断することができる。 問題解決を目指して物事を多面的・多角的に考察したり、双方の意見を公正に判断したりと様々な課題を視野に入れながら、自らの意見・考えを発表し、議論することができる。	双方向のコミュニケーションに興味・関心を持ち、問題解決を他人（第三者）にまかせるのではなく、様々な手法を用いて自分たちで主体的に解決しようとすることができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	聴覚障がいについて	・双方向のコミュニケーションについて ・聴覚障がい者について ・対話促進のための手法 ・手話の技法、役割等	a:双方向のコミュニケーションについての基本的な知識や言葉について理解することができる。 b:どうすれば相手から会話をたくさん引き出すことができるかを考察できる。 c:実習を通して自らの考えを実践にうつすことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物・実習
2学期	視覚障がい・肢体不自由につい	・双方向のコミュニケーションについて ・視覚障がい者について ・対話促進のための手法 ・点字の技法、役割等 ・車いすの使い方	a:双方向のコミュニケーションについての基本的な知識や言葉について理解することができる。 b:どうすれば相手から会話をたくさん引き出すことができるかを考察できる。 c:実習を通して自らの考えを実践にうつすことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 実習
3学期	知的障がい・について	・双方向のコミュニケーションについて ・認知症への理解	a:双方向のコミュニケーションについて理解できる。 b:事例を通して問題解決に結びつく方法を考察することができる。 c:実習を通して自ら考察した問題解決方法を発表・実践することができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 実習

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度